

音更電設 設立前進の歩み

故、齊藤進は一九四四年三月十一日まれ

中学を卒業後、札幌にて就職、20才頃

何かの縁で今の土屋ホームの初代社長 土屋公三代

と出合い、土屋さんを社長として何人かの仲間が不動

産会社を立ち上げ、齊藤進は不動産の勉強を

しながら北海道をくまなく回り不動産セールスマン

として成績を上げたと言っている。

その後、免許も取得し、帯広に戻り土屋さんを離れ独立

し、私と共に、緑ヶ丘不動産株式会社を創業

当時、不動産の売買はとても活気が有り、宣伝も

功しか、取り引きも順調で忙しい毎日でした。

そんな中、又、又、何かの縁で電設業をしている方と出合い、

その方の電設業をやめたいと言う話があり

私達二人は、何としてもその仕事の入ったので

当時の北海道電工さんの帯広支店長さんであった

田中さんと言う方の家を幾度となくお訪ね、心から

お願いし、やがて音更に事務所を持つ事を条件に

許していただいたものであり

早速、音更の鈴蘭公園の近くに借家を借り

そこを拠点とし、音更電設という商号で会社を

作り、第一歩を踏み出したのであり、資本金は

百万円でした。

電設をやめた人もうちの従業員となり、その方の車

も引き取り、一度、不動産の見習いとして来ていた

高井嘉泰へ後に二代目社長となる事もかり出し

広告で従業員を募集 及び 乞（後に取締役と
なる）中村君、まだ中身を吐き出さなかつた。

そして、社長みずからも并当持参に現場に行つたため
仕事の始まりでした。

徐々に人員も多くなり、三年程過ぎた時、近くに
土地を買い、電信柱で車庫所を作り、本格的に

仕事を下る事になったので、当時の車庫所の写真
かなりかとも残念でなりません。

私は不動産と、電設の事務に忙し、寝る間もなく
働いた事は、今と比べてもなつかしい思い出です。

エピソードになります。ある日、社長と倉田さんと
仕事の出来る人の何かいい戦いになり、倉田さんの会社

をやめると言い出し、休む事になりました。私は主人に
内請で電話を掛け、何もなかった事振りで会社に

来てもらう様、お願をした事もありません。
倉田さん、次の日から何もなかった振りして会社に来て

く小あした、とでもう小しかつた事、覚えていまい人
会社をやめて行く人、又、帰って来て一生懸命働いて

く小る人、私の家で酒盛りをしたのら、仕事の話も
した事など、思ひ出はたくさんあります。

早いもので、五十二年という年月が過ぎると思つと
色々と従業員の皆様には、無理も言ひ、この道一筋に

働いて頂戴、大勢の方々に、感謝申し上げ、この先、
六十年、七十年の節目を、迎える事を願ひ

やります。

世の中を明るく照らす、工員さん、感謝の気持ち、倉田さん

倉田 育子